



題字 布田祐五郎様

2012年11月 錦秋号

秋田高校東京同窓会
〒106-0032 港区六本木 5-16-5
インベリアル六本木 1001 鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775 FAX 03-5545-0087
URL http://www.shuko-ob.net/

2013年は秋高創立140年。



平成11年8月 漫才コンビ結成
平成13年5月 宮田章司一門に入門
受賞歴
平成16年 第3回漫才協会主催漫才新人大賞・優秀賞
平成17年 第4回漫才協会主催漫才新人大賞・大賞
平成24年 平成23年度(第66回)文化庁芸術祭賞
大衆芸能部門新人賞

私、漫才師をしております宮田陽(みやたよう)という芸名で、宮田昇(みやたしょう)という相方とコンビを組み、浅草演芸ホールや新宿末広亭など都内の演芸場に日々出演している、いわゆる寄席(よせ)芸人つてヤツです。(秋高同窓会だよりより)

二〇一三年の担当年度幹事は「3」S13、23、33、43、53、63、H3、13卒です

一四〇年……。何代、何世代にわたり秋田に生稀、学び、育ち働き、出てきてまた営み、そして帰り……。故郷を思い、創りの日々。

秋田高校東京同窓会二〇一三年新春の集い、学生との交流会を呼びかけます。

集いて、今一度「天上はるかに」声高らかに。先達の歴史と若者の将来、夢を共に。待っています。

1月26日(土)
13時開会

新春賀詞交歓会 大学生との交流会 (16時 30分)

アルカディア市ヶ谷
(市ヶ谷駅前)

〒102-0073
東京都千代田区九段北 4-2-25
TEL 03-3261-9921
FAX 03-3261-9931



受付	12:30
大学生との交流会	13:00 ~ 16:30
齊藤さん講演	16:30 ~ 17:20
賀詞交歓会	17:30 ~ 20:00
会費	7000円 学生 3000円

大学生よ、来たれ!
「大学生と社会人の交流会」

平成25年1月26日(土)に新春恒例の「大学生と社会人の交流会」が「アルカディア市ヶ谷」で開催されます。本交流会では、大学3年および2年生を中心とした卒業生に対し(浜田浩一氏(平成16年卒)による「徹底解説」内定獲得・同じ出身校だからこそ本気で本音で語り合える!臨める!就職活動」と題する就職対策講座を開設します。就活に役立つ重要なポイントを整理、確認した後、各業界で活躍中の20歳後半の若手OBおよびOGが、業界毎に参加大学生と車座・対話形式で質問に親身にお答えし、かつ本音で語り合える場を設定します。学生達は希望の職種の手先先輩と積極的に交流し、先輩達自身の就活経験、現職を踏まえた対話を通して、普段、就活本やインターネットでは得られない貴重な生の情報を得ることが出来ます。また、交流会に参加した学生達は、引き続き「賀詞交歓会」に参加し、社会人OBおよびOG達との懇親、交流も行われます。

本年1月に上記の形式で交流会を実施しましたが、集まった学生達に大変好評で大盛況に終了しました。この交流会に参加し内定を勝ち取った大学4年生達から、数々の感謝のメッセージが同窓会に寄せられています。この交流会は、学生達が秋高同窓生の各界でご活躍の諸先輩方と面識を得るとともに、就職問題、将来の進路等の悩みを相談できる格好の機会であり、大学の同窓会とは一味違った意義あるイベントです。また、同窓会のご子息・ご令嬢の参加も歓迎です。こうした会が賀詞交歓会に付随して開催されていることを、一人でも多くの秋高出身の大学生達に認知され、就職活動に役立てていただけたらと痛切に感じております。大学生はもとより社会人の皆様にも是非、多数ご参加いただきまますようお願いいたします。

(S)51卒 鈴木 香

秋田高校東京同窓会インフォメーション

幹事会

1月11日(金) 5月10日(金) 9月13日(金)
3月8日(金) 7月12日(金) 11月8日(金)

スケジュール

総会 2013年7月6日(土)

「汝何の為に其処にありや」

平成24年度定期総会開催

「今年も暑い夏がやって来る」そんな予感をさせる24年6月2日。

秋田高校東京同窓会の総会がハイアットリージェンシー東京で開催されました。

去年の総会は東日本大震災の後三ヶ月も経っていないときでした。「絆」を再確認した総会でした。そこからさらに一年。今年はずいぶん長い復興の元年になる年として皆一人ずつ自分のできる範囲での支援を考える、まさしく秋田高校の魂「汝何の為に其処にありや」を思う場となりました。

式次第に従い副幹事長の今野仁氏（S50卒）が開会宣言をし副会長の二木猛氏（S39卒）が開会挨拶



撻に立ち、幹事長の私鎌田進（S47卒）が一年間の事業報告と計画・会計幹事伊保谷徹氏（S59卒）が決算と予算・東海林和彦氏（S45卒）の監査報告で皆さんからの承認を得て議題を終了しました。本部同窓会からは会長豊口祐一氏（S34卒）・校長高橋真氏（S47卒）・事務局長寺田和夫氏（S41卒）の三人が来賓としてご臨席を得て挨拶を頂きました。今年のゲストスピーチは世界的大腸内視鏡の権威、工藤進英氏（S41卒）でした。氏の医師としての心がけや生き方また秋田にかける期待や思いを存分に語って頂きました。



懇親会には我が東京同窓会長の橋本五郎氏（S40卒）も到着し佐藤恵さん（S56卒）の会場に響き渡る張りのある声での名司会で始まり、秋田の酒四本（一升瓶）もあつという間になくなるほどの大宴会となりました。宴の最後には大本香津子さん（S31卒）のリー

ドによる校歌を5番まで歌い上げ、佐藤映氏（S60卒）の素晴らしいエールで「シユウコウの卒業生でよかった」と感極まったところで尾形均副会長（S44卒）の中締めで終了となりました。

（S47卒 鎌田 進）



**秋田高校東京同窓会
定期総会に参加して**

秋田弁で話せる機会と新たな出会いと思われ旧交を温められる場面と、そして工藤進英先生のレクチャーに誘われて東京同窓会に足を運びました。

工藤先生のお話は、大腸ガンの最先端医療について専門的なデータと、世界各地の遺跡や都市風景を背景にしたさまざまな交流の場面の映像を交えてのとても興味深いものでした。世界を精力的に駆け巡りながら、その検査治療の数と機器に対する妥協のない改良とによってより精密にそれまで見

えなかつたがんも見えてくる。肝心なことは心で見ると、木を見て森を見てまた木を葉を葉脈まで見る、そんな強い信念とエネルギーギッシュな行動力に感銘を受けました。

そして、郷土秋田を医療という産業を通して元気になりたいという思いを熱く語られました。私も建築家としていくつかの施設を秋田に設計するなかで、より元気に活力ある郷土実現のためには広く同志が世代を超えて連携していく必要があると感じています。同窓会がそのきっかけになるかもと感じた会でした。

でも同窓会のベースはやっぱり秋田弁でしゃべれる場の心地良さですね。

(S48卒 荻津郁夫)

定期総会に参加して

ラグビー部の先輩である初山さんに誘われ、初めて東京同窓会に参加致しました。

正直なところ、知った顔が多いラグビー部のOB会とは異なる上、堅苦しい会というのは苦手なため柄にも似合わず緊張してしまいました。

ただ、先輩方から話しかけて下さったり、ラグビーで繋がった縁もあつたりと次第に楽しむ事が出来、「秋田高校で良かったな」と思える会でした。



同窓会の直後に辞令が出たため、私は現在札幌市におります。

ススキノに現を抜かさず、部の大先輩でもあるサッポロビールの菅笠さんの元、秋田高校のパワーをドンドン出して後輩にも声掛けを続けます。

余談ですが、私はラグビー部と並行して写真部にも在籍しておりました。その時の顧問が同窓会事務局の寺田和夫先生でした！卒業して5年経ちますが、変わらない出で立ちで嬉しく感じました。

私の事はどうやら記憶の彼方についてしまっていたようですが(笑)、当時の話で盛り上がる事が出来ました。貴重な時間をありがとうございました。

(H19卒 鈴木和慶)



他校のみなさん







去る6月2日、東京同窓会定期総会において工藤進英氏(昭41年卒)の講演が行われた。メディアで目にされた事がある方、あるいは実際に診察を受けた方も少なくないと思うが、当日は「大腸がん、これだけ知れば怖くない」と銘打たれた講演が行われた。裏話も飛び出すなど会場が笑



工藤進英氏(昭41)

い声に包まれることもしばしばあったが、氏の講演内容を簡単に紹介したい。

①「大腸がんに関する知識」：大腸の仕組みに始まり、北東北で大腸がんが多

い事、男女とも大腸がんの死亡率・死亡数が増加している事などが紹介された。

氏は対策として、病にかかる前の一次予防(運動等)そして早期発見と早期治療による二次予防の大切さを力説しており、この2点によって「大腸がんは怖くない」「大腸がんでは死なない」という事が実践・証明されるというわけである。

②「現在までに取り組んだ仕事や活動」：実は、氏の輝かしい功績は、母校である新潟大学そして秋田赤十字病院での活動がベースになっている。

氏は、当時の定説「大腸がんはポリープの悪性変化」に疑問を抱き、「幻のがん」と呼ばれた陥凹型の大腸がんに関心を持った。常識にとらわれずに研究を進めた結



果、ついに「幻のがん」を発見した(ポリープ治療のために色素を使用した際、偶然見つけた。足の震えが止まらなかったという)。はじめは揶揄されていた欧米でも、実際に見てもらう機会を設けたことをきっかけに評価が変わったと話し、以来第一人者として日本のみならず世界中を飛び回り治療や指導を行っている。

最後に、氏は小説・星の王子様から「心で見ないと物事はよく見えない。肝心な事は目に見えない」と引用されていたが、常識や慣習に捕われず真摯に取り組まれてこられたのが伝わってくる講演であった。懇親会でも一人一人と丁寧に話される姿が印象的で、氏の人が柄が感じられる素晴らしい一日でもあった。

(H13卒 初山大輔)

③「持論・提言」：日本の医療界が持つ閉鎖性へ苦言を呈す一方で、日本の医療は素晴らしいので医療産業を確立すべきとの持論も展開するなど(秋田は医療立県となるべき!とも)、第一人者としての自負が垣間見られた。

輝かしい功績がありながら「患者のために」を徹底されてこられたのがひしひしと伝わってきた。

二〇一三年は秋高創立一四〇年

同期会 だより

昭和41年卒 41会

いことぐらいますが、兎にかく卒

こんにちは
私たちは41年卒の東京仲間です。41年卒の特徴は人口が史上一番多



業当時の時勢のままに都会へドツと出てきてしまいました。最初は25年ほど前の秋、東銀座の裏通りのビル地階、能代という小料理屋がたまり場でした。だれもが各分野の働き盛り、しかるに時には集って秋高生に戻ることが無上の息抜きで、5人7人10人15人と、ゴルフ道具を持つ者だと二組が成立するほどに、次第に集まりの輪が拡がりました。そして仲間がさらに同期の友を呼び参加者が相当数に至ったところ、この集りに秋交会と名付けました。

一回の年もあるにしろ最初の東銀座にちなみ必ず秋には一回、という秋と、秋高の秋、その秋のあとに交友の交、それで秋交会です。以来秋交会開催は年に数回の年も或いは一回だけの年もありましたが、律儀にも秋を欠かした年はなく会名の通り推移しています。また自ら言うのも変ですがこの会の立派なところは、AからJま

年に数回開催の年も

その後三年ごとに同期会を開催し、

昭和52年卒 52会

昭和五二年
卒業同期会
私達昭和
52年卒業生
は、一九九三

有しております。

高校三年次の運動会のビデオ鑑賞に笑いの渦を誘い、前々回は『星ぼしの調べ』とのテーマで、同期であるNHK交響楽団菅原潤氏のフルート演奏をバックに、国立天文台ハワイ観測所林左絵子氏の天文トークと、都度楽しい時間を共に

この稿が印刷されるころには終わっています。9月末に秋田市内で41年卒地元家による全体同期会が開催され、東京からも多く馳せ参じます。
(S41卒 藤原/田口/緑川)

得ません。前回は、

二〇一二年で七回を数えました。毎回八月二四日に開催していただきます。日本全国から同期が相集う光景は、胸を熱くする、正に幹事冥利に尽きるものであり、母校秋田高校の伝統からなる母校愛に根差した、確固たる求心力を覚えざるを得ません。



人生においてこれからますます充実した時期を迎えようとする私達にとり、今後さらに同期の輪が広がり、その絆が豊かな生きざまに花を添えられんことを期待して止みません。
(連絡先 018-823-9381 幹事菊地)



いつから今のシステムになったのかは存じませんが、公式な同期会は10周年を皮切りに以降5年毎に開催されている模様です。さて肝心の会ですが、冒頭の心配も杞憂に終わり、二〇〇人を超える同期生が思い出話に花を咲かせました。

司会はAKTでも活躍する後藤

平成 13 年卒
13 会

出てこない。」

「俺？元気元
気！元気？(え
いっと名前が

仲間
変わらない



美菜子さんがプロの技を魅せ、諸先生の挨拶もそこそこに各運動部がマイクジャックをして会場を盛り上げました。

エリート街道まっしぐらの者、独立した者、ちよつとした有名な人になっている者など皆成長しておりましたが、会話の八割以上は高校時代の馬鹿話！

ここに載せられない内容も多数ありました(笑)
最後は東海林雄大君がメの乾杯。

またの再会を皆で約束しましたが、次は見た目が変わりすぎて「元気？誰だっけ笑？」が本当にあったらどうしよう...と一人思うのであります。

(H13卒 初山大輔)

三〇会有志の「諏訪大社での喜寿の祈禱と恒例の蓼科高原ゴルフ会及び散策会」の開催

三〇会の年四回のゴルフコンペの夏期は蓼科高原GCが恒例となつており、今年七月三〇日に実施した。何時も薄田耕二君が手配してくれる東京トヨタ山荘に前日に集まり夜懇親をしている。

今年常任幹事の佐藤正彦君が、諏訪大社に数え年七七歳の喜寿を祝う祈禱を頼んで呉れた。ゴルフをしない四名も含めて総勢

一四名が上社本宮に集まり、神主さんの修祓・祝詞奏上と玉ぐし奉奠等の後、お祓いで皆の上に積もっていた邪鬼を退治して貰った。巫女さんに直会のお神酒を戴いた後、記念写真のシャッターを押して貰って海抜一六〇〇mの山荘に行つた。

夜は、宿のビールと、大社で貰つたお神酒一本、持参の日本酒三本、ウイスキー、焼酎等を傾けながら、それぞれが知る同期生の最近情報を紹介し合う等して涼しい高原の夜を楽しんだ。

フ組と一組の周辺散策組と分かれて、快晴の蓼科高原をそれぞれに満喫した。ゴルフ組は、ペリア方式で優勝とベスグロは高橋捷郎君が、準優勝は阿部光弘君が取つた。なにせ海抜約二三〇〇mのゴルフ場は空気が薄くボールがよく飛び越えて行つた。周辺散策組は車で八つ岳連峰の北横岳方面に行き、絶景の澗岩坪庭自然園遊歩道等を散策した由である。

ゴルフの終わった午後二時半頃、散策組も含めてゴルフ場の一室に集まり全員で打ち上げ式を開き、次回の日程や場所等を決めて散会した。特に喉の乾いた五人は更に一泊して、ビールを飲みながら囲碁を打つたり、昨夜の残り酒を飲みながらプレーの反省会等を開いて翌朝に帰った。

三〇会の諸兄姉には、毎月第一月曜日の八重洲での囲碁会、年四回のゴルフ会、年末年初恒例の全体での鴨鍋会(今年は渋谷パンダ店で十二月十日午後一時から)、それに秋高東京同窓会の新年会や総会等のイベントにも振って参加して戴きたいと思う。連絡を待っている。



翌日は、三組のゴルフ

(S30卒 横山樹静)

クニマスと秋高同窓生の役割



繁殖に使われた親魚 (撮影: JECO)

繁殖して定着したものの。図らずも大発見へと連なった。これを受けて、私たち日本野生環境学術振興会(通称JECO)／那波三郎(右衛門会長)は、クニマス特別委員会(共同代表・橋本五郎、西木正明、岩崎雅典の三氏)を組織、調査に当たった。結果、今春『クニマス考論』を編み『再生への途』を提言した。7月二二日には、仙北市民会館で『クニマス帰還と秋田・山梨両県の文化交流』シンポジウムを開催。前述三氏に加え劇作家の内館牧子さん、仙北市長、富士河口湖町教育長、

それに秋田・山梨両県の水産技術専門員や識者を招聘。互いに故郷の未来を耕すべく活発な討論を展開した。

平成二三年暮れ「クニマス西湖で生存/70年ぶり奇跡の発見」と衝撃のニュースが飛び込んできた。「クニマス」。この魚は田沢湖の固有種。絶滅の主因は昭和一五年、発電と農業用水に供するため、国策により玉川からPH1・2の強酸性温水を田沢湖に導入したことにある。以降、生き物たちにとって、田沢湖は死の湖と化した。

クニマスは現在、山梨県で養殖されている。田沢湖の自然環境再生は程遠く、本県への帰還は水槽飼育となる。当会では顧問を含め、母校卒業生四三人が奮励中です。(JECO専務理事・S39卒 秋山秀昭)

母校インフォメーション

学校では、後期から次のテーマを掲げて教育活動を推進する予定です。

創立140周年
語り継ぐ「秋高精神」
品性の陶冶
わが生 わが世の
天職いかに

勉強も部活動も、品性の陶冶、すなわち人間を磨くためにやる、そして単に大学に合格するための勉強ではなく、社会人・職業人としての生き方や人間としての在り方を考え、常に「わが生 わが世の天職いかに」と自らに問いかけよう、という意味です。スケールの大きい魅力ある人材の育成を目指し、頑張ります。今後とも御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(校長 高橋 貢)

協賛アピール 広告のお願い

秋高卒業し〇〇年の同窓の皆さん。日々の事業や生活に大変なことと思います。この秋田高校東京同窓会の活動及び会報「天上はるかに」の発行には2300人の熱き支援、参加なしには幹事役員だけでは実現できません。つきましては、来年度から会報に『協賛アピール広告』欄を設け、多少の活動援助に御協力いただけないでしょうか。名刺や事業紹介など何でもあります。名刺大1コマ(3000円)です。是非ご検討のほどよろしくお願いいたします。詳細や申込方法は総会その他HPでお知らせいたします。

[名刺大・見本。2012年けやき会プログラム広告より]

S32年卒

小柳歯科クリニック
小柳 輝芳

TEL 03-3394-1133

S39年卒

岩川 作丕圖
岩川税理士事務所

TEL 03-3994-4888

S39年卒

二木 猛
秋高同窓会副会長
秋田ふるさと応援団副会長

S40年卒

橋本五郎
読売新聞特別編集委員
秋高東京同窓会会長

世界の水問題解決は
グローバル
ウォータ・ジャパンへ

S42年卒

吉村 和就
グローバルウォータ・ジャパン代表

http://gwaterjapan.com/

S44年卒

総務、人事、派遣、
請負のアルゴネット

尾形 均
ラグビー部OB
(株)アルゴネット代表取締役

argo-ogata@sunny.ocn.ne.jp

S44年卒

一人で
考え込まないで!

高橋 裕次郎
弁護士・高橋裕次郎法律事務所

y-takahashi-law@f04.itscom.net

S47年卒

鎌田 進
鎌田会計事務所
秋田高校東京同窓会幹事長
税務署という漢字を見たら
鎌田へご一報を

sukamata@nifty.com

24年度 会費納入者一覽

(平成24年10月31日現在)

昭和27年	加藤明男	昭和30年	横山樹静	昭和35年	吹浦忠正	昭和38年	湯澤邦彦	昭和41年	片山いく子	昭和46年	東海林幹夫	昭和55年	山口宣子	平成18年	佐々木広入
昭和26年	石山喜章	昭和30年	松沢研二	昭和35年	野口洋	昭和38年	千葉邦雄	昭和41年	岡本美紗子	昭和46年	小泉精	昭和55年	佐々木敦子	平成13年	初山大輔
昭和26年	那波直司	昭和30年	保坂邦雄	昭和35年	高橋紀男	昭和38年	武田義之	昭和41年	板澤幸雄	昭和46年	河村純子	昭和54年	有路直樹	平成13年	川邊肇之介
昭和26年	鈴木協一	昭和30年	藤原弘之	昭和35年	小泉忠一	昭和38年	高田 齐	昭和41年	山田義昭	昭和46年	武田好史	昭和54年	斎藤頼太郎	平成11年	三浦暢子
昭和26年	東海林宏雄	昭和30年	早川輝夫	昭和34年	山田信子	昭和38年	鈴木宣正	昭和41年	中西祥子	昭和46年	浅野義孝	昭和54年	小柳 宏	平成08年	伊藤正寛
昭和26年	佐々木清水	昭和30年	萩野 瑞	昭和34年	武藤良孝	昭和38年	鈴木宣正	昭和41年	佐藤三郎	昭和46年	東海林和彦	昭和54年	山田健昭	平成04年	佐藤健太郎
昭和26年	佐々木研吾	昭和30年	那須秋男	昭和34年	高橋恒松	昭和38年	佐々木常夫	昭和41年	河田 章	昭和46年	前田俊子	昭和52年	山岡長英	平成02年	佐々木広入
昭和26年	狩野良徳	昭和30年	高橋 紳	昭和34年	鈴木正昭	昭和38年	加賀谷久	昭和41年	鎌田政朋	昭和46年	二宮朋子	昭和52年	高田真千	平成02年	遠藤義隆
昭和26年	小熊 巖	昭和30年	高橋捷郎	昭和34年	清水 哲	昭和38年	伊藤博康	昭和41年	加藤弘次	昭和46年	尾形 均	昭和52年	鈴木久彰	平成02年	浅野周一郎
昭和26年	伊藤 隆	昭和30年	薄田耕二	昭和34年	佐藤忠雄	昭和38年	荒谷紘毅	昭和41年	岡本宣子	昭和46年	松尾 正	昭和52年	志田政人	平成01年	諸橋公喜
昭和26年	五十嵐泰弘	昭和30年	鈴木良一	昭和34年	佐藤宏二	昭和38年	阿部侃壽	昭和41年	伊藤弘人	昭和46年	豊田成昭	昭和51年	谷口一徳	昭和62年	三輪皇子
昭和25年	神一 泰雄	昭和30年	鈴木妙子	昭和34年	笠井重厚	昭和38年	細谷勝幸	昭和41年	山下恵司	昭和46年	菅野庄一	昭和51年	柴田康之	昭和62年	保坂英明
昭和23年	星野恒雄	昭和30年	佐藤敬幸	昭和33年	高橋紀夫	昭和37年	長原碩之	昭和41年	安田恭子	昭和46年	小柳清光	昭和51年	伊藤昌紀	昭和61年	田口 嘉
昭和23年	上野 勝	昭和30年	大塚正民	昭和33年	佐藤 広	昭和37年	寺門広輝	昭和41年	松村征彦	昭和46年	太田まり子	昭和50年	増村裕之	昭和60年	西尾 薫
昭和23年	明石 康	昭和30年	大坂弘二	昭和33年	齋藤秀世	昭和37年	小松翼男	昭和41年	堀江孝平	昭和46年	石田和夫	昭和50年	清野多賀子	昭和60年	中嶋京一
昭和22年	金沢祐吉	昭和30年	池田瑛子	昭和33年	熊谷光太郎	昭和37年	宇佐美征喜	昭和41年	原田幸雄	昭和46年	吉村和就	昭和50年	今野 仁	昭和60年	富樫 真
昭和22年	加藤三朋	昭和30年	秋山文平	昭和32年	今野 昭	昭和37年	小原美穂子	昭和41年	二木 猛	昭和46年	田村信次	昭和49年	松井利一	昭和60年	佐藤 映
昭和21年	那小屋豊	昭和29年	武藤 実	昭和32年	松田祥男	昭和37年	伊藤清信	昭和41年	原田幸雄	昭和46年	畑山康幸	昭和49年	長谷川高	昭和60年	渡部 博
昭和20年	田添達夫	昭和29年	日高一雄	昭和32年	二木芳郎	昭和37年	渡辺 翔	昭和41年	高村國男	昭和46年	武内 暁	昭和49年	館山英昌	昭和59年	佐藤直子
昭和20年	清水高義	昭和29年	白滝一紀	昭和32年	長谷山央	昭和37年	渡辺 翔	昭和41年	高村國男	昭和46年	清水光雄	昭和49年	白石 好	昭和59年	町田元邦
昭和20年	小玉保次	昭和29年	菊地 豊	昭和32年	齋藤康夫	昭和37年	渡邊 東	昭和41年	高橋恭子	昭和46年	佐藤貞直	昭和49年	石田二郎	昭和59年	菅原 晃
昭和20年	大友英一	昭和29年	井上昭則	昭和32年	栗原洋子	昭和37年	森川 毅	昭和41年	鈴木眞理子	昭和46年	工藤潤一	昭和49年	道田治雄	昭和59年	伊保谷徹
昭和19年	山崎英郎	昭和28年	増田善彦	昭和32年	小柳輝芳	昭和37年	村山公士	昭和41年	進藤晃男	昭和46年	加藤恒二	昭和48年	荻津郁夫	昭和59年	佐々木良枝
昭和18年	伊藤銀蔵	昭和28年	瀬下鉄五郎	昭和31年	渡辺 徹	昭和36年	松岡直昭	昭和41年	澤木義春	昭和46年	大森正高	昭和48年	大橋 朗	昭和59年	大窪克之
昭和18年	小笠原利昌	昭和28年	加藤英隆	昭和31年	原田善治	昭和36年	西野義久	昭和41年	佐藤二郎	昭和46年	加藤恒二	昭和48年	三澤英二郎	昭和58年	安井真知子
昭和17年	田村謙一	昭和28年	小畑次郎	昭和31年	中村啓一	昭和36年	永井睦子	昭和41年	佐々木正徳	昭和46年	大野省治	昭和47年	吉村眞理子	昭和58年	望月和幸
昭和17年	園部俊雄	昭和27年	宮田 徹	昭和31年	中川信夫	昭和36年	富岡俊雄	昭和41年	佐々木敏文	昭和46年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和15年	金原善徳	昭和27年	高橋恒雄	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富樫練三	昭和41年	佐々木敏文	昭和46年	緑川稔秀	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	工藤 亨
昭和12年	桑名忠夫	昭和27年	佐藤雄三	昭和31年	高橋壽夫	昭和36年	田口平治	昭和41年	桑名 齐	昭和46年	成田憲明	昭和47年	佐々誠一	昭和58年	石井浩郎
昭和11年	小田部精一	昭和27年	佐々木長雄	昭和31年	佐藤公隆	昭和36年	須磨洋次郎	昭和41年	大澤 健	昭和46年	田口佳孝	昭和47年	鎌田 進	昭和58年	青山卯女
昭和31年	相場三郎	昭和31年	伊勢諒吾	昭和31年	大本香津子	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	伊勢諒吾	昭和31年	大木香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	相場三郎	昭和31年	伊勢諒吾	昭和31年	佐々木洋	昭和36年	須磨洋次郎	昭和39年	大泉直則	昭和41年	鈴木進吾	昭和46年	鎌田 進	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	佐藤公隆	昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	工藤 亨
昭和31年	佐藤公隆	昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	佐々木行	昭和31年	大本香津子	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大木香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正	昭和39年	江頭明子	昭和41年	菅原眞砂子	昭和46年	加賀谷博史	昭和57年	藁谷 宏
昭和31年	佐々木洋	昭和31年	須磨洋次郎	昭和31年	大澤 健	昭和36年	田口平治	昭和39年	桑名 齐	昭和41年	成田憲明	昭和47年	柴田紀彦	昭和58年	石井浩郎
昭和31年	高橋壽夫	昭和31年	中川信夫	昭和31年	寺山誠行	昭和36年	富岡俊雄	昭和39年	佐々木敏文	昭和41年	渡邊由美子	昭和47年	中谷多佳子	昭和58年	児島みゆき
昭和31年	中川信夫	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	齊藤周光	昭和39年	岩川作丕	昭和41年	猿谷 彰	昭和46年	前川 仁	昭和57年	小松 洋
昭和31年	大本香津子	昭和31年	大本香津子	昭和31年	佐々木行	昭和36年	笹岡靖正								

秋高連（あきこうれん）活動報告

6月25・26日、恒例の「ふるさと訪問」を秋田県北地区で開催した。

25日（1日目）……13時鷹巣駅に集合（総勢22名）、23年4月に鷹巣農林・鷹巣・米内沢・合川の4校が統合した秋田北鷹高校を訪問。佐藤英樹初代校長より新しい学校の説明と校舎の案内を頂く。フェンシング・ソフトテニス・相撲・写真等、クラブ活動が盛んだ。

続いて、大館国際情報学院（中・高校）に移動、大館駅の北側に隣接している。記念植樹の後、生徒の進路等くわしい説明と校舎の案内を頂く。円形のメディアホールが特徴的。

十和田湖発荷峠、大湯環状列石等を観光、18時大湯温泉・龍門亭千葉旅館に到着。源泉かけ流し温泉の後は、盛大に懇親会・カラオケ大会。

26日（2日目）……9：00小坂精練（株）を訪問、世界一の複合リサイクル精練所としての説明と工場見学・関連会社・施設見学の案内を頂く。最後に本物の金塊・銀塊を目にして、皆持ち上げて大喜び。

その後、小坂康楽館（日本最古の芝居小屋）を訪問、内部の案内と説明を受ける。昼食は小坂鉦山事務所のレストランあかしあ亭で、全員黒鉦カレー。

12：30大館駅で一部解散、その後北欧の森を経由、鷹巣駅で「ふるさと訪問」を無事終了した。（S42卒 大野省治）



〔ふるさと訪問参加者〕

秋高連フェスタ開催（ご案内）

日時：11月29日（木）、17：00～

場所：アルカディア市ヶ谷

会費：8千円

申し込み：同窓会事務局または
大野

（携帯：090-5771-5331）

毎年、県内各高校の同窓会より約350名が参集します。是非、ご参加お願いします。



〔ゴルフ大会〕



「けやき会」は9月6日佐倉カントリーで、各校交流ゴルフ大会を行い、秋高からも鎌田、畑澤、百瀬、武内（交流会）も参加。一日楽しみました。ゴルフ倶楽部の今後に期待。また11月14日は「秋田市政情報交換会（総会）」がアルカディア市ヶ谷で、12月1日は高尾山ハイキングがあります。是非参加をお願いします。

けやき会・秋田ふるさと応援団だより



〔甲子園にて2012年夏〕

秋田ふるさと応援団は四年目になります。全国大会出場チームの垣根を越えての応援。なかなか秋高、甲子園・花園……出でこないなあ。なんとしたか。でも柔道とか今年は……。待ってます。二〇一三年は東京で国体、そして二〇一四年は国民文化祭が秋田で（10月から）一月全国から二〇〇万人秋田へ。首都圏での告知、PRがんばりましょう。秋田へ行ってけれ！体験を！ええとこだどお！……と。

12月6日（木）18時 秋田文化会議（橋本会長世話人）のシンポジウム「菅江真澄と秋田」（石井正己東京学芸大学教授）於：日本プレスセンター。にも顔出してけれ「け」。

（S42卒 武内 晁）

橋本五郎の AKITA 元気トーク



秋高東京同窓会会長
橋本 五郎

永遠の「汝、何のためにありや」

秋田高校は来年百四十周年を迎えます。その長い歴史から見れば、三年というほんのわずかな時を過ぎたにすぎません。でも、かけがえない時として、自分の人生に刻印されています。鈴木健次郎という一生を左右する師に出会ったからです。

高校二年の春四月でした。校長として赴任したばかりの鈴木先生は、生徒にこう呼びかけられました。

「汝、何のためにそこにありや」と、いつでも、どこでも、だれにこの問いを発せられても、即座に断言できる自覚ある生活を送ってもらいたい。

千五百人の生徒は水を打ったように静かに聞き入り、深く感動しました。多くの生徒にとつて、この言葉は、瘦身の清潔感あふれた厳しい風貌とともに、終生忘れることのできない「導き」となりました。

決断できないまま一歩を踏み出せないでいるとき、行き詰まって追いつめられたとき、あるいは、もやもやを吹き飛ばそうと思つて、カラオケで歌っているとき、「汝、何のためにそこにありや」が聞こえてくるのです。こうしてはいられないという焦燥にかられます。常に自らに発していないければいけないと反省させられます。偉大な師を持ち得た幸せを感じています。

秋田本部同窓会事務局日誌

残暑厳しい一日、北上川源流部七時雨(ななしぐれ)山の裾野に広がる草原を訪ねました。七時雨の風の中、思い思いに憩う家族連れや、手を切るように冷たい水が印象的でした。

さて、東京同窓会の皆様、お元気でしょうか。本部は今、来年九月一日の母校創立百四十周年まで一年を切り、各実行委員会が活発に活動しております。主な活動は母校の教育振興基金立ち上げのための募金活動、行事(式典・祝賀会等)の調整や準備等の活動、更に「周年誌」・「名簿」・「同窓会だより」の編集発行等です。事務局も日常業務に加え、これらと関わって動いております。

特に今回の眼目である募金については、既に千数百名の方々からご協力いただいておりますが、九月末現在まだ目標額の三分の一弱ということをご報告申し上げます。

多士済々な人材を世に輩出している母校は今も文武共に健在です。彼岸を境に、手形中台を吹き渡る風も随分秋めいて参りました。(S41卒 寺田和夫 本部事務局長)

東京同窓会 平成 24 年度事業計画案

1. 会報誌「天上はるかに」を同窓会活性化の手段として活用
 会員が興味、関心をもてる紙面づくり
 年2回発行とする 原則4月末、10月末 2000部以上発送
2. ホームページの充実
 同窓会本部、他支部、他校同窓会ホームページとのリンクとPR
 各年次同期会の報告記事、同窓生の関連するイベントやニュースを載せる。
3. 二大イベントとして
 - ①6月 定期総会 ゲストスピーチの充実とPR
 - ②1月 賀詞交歓会と学生と社会人OBとの交流会(就職懇談会)
 この試みは他をみないユニークなものなので学生、若手会員とともに現役のビジネスマンを積極的に動員する。
 - ③賀詞交歓会とのコラボで社会人会員と学生会員との積極的交流を計る
4. 渉外活動の活性化
 秋高連、けやき会、秋田ふるさと応援団、県人会等秋高同窓会内外団体と協力して秋田応援・東北応援活動を進める。

幹事長だより

来年は我が秋田高校の一四〇周年に当たります。母校では平成二五年九月一日に記念式典を行うことが決まっています。東京同窓会の会長「橋本五郎」氏がその記念式典で講演致します。今から楽しみでもありません。東京同窓会でも一四〇周年を祝おうとの機運が高まりつつあります。次回の「天上はるかに」でご報告したいと思います。

その前に一月二六日(土)の賀詞交歓会を楽しもうと幹事一同張り切っております。「二〇年単位幹事制(チーム)」を導入して二年目に入ります。今度の賀詞交歓会から一年間は3の付く卒年、S13・S23・S33・S43・S53・S63・H3・H13の幹事に頑張ってください。

皆さん積極的に秋田高校東京同窓会に関わって頂きますようお願い申し上げます。一人一人が参加してみようと思われる企画をできるだけ考えています。どうぞ皆さんも我々幹事にお声掛けくださいませ。そこから少しずつ人の輪が広がります。(S47卒 幹事長 鎌田 進)

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、是非本会報に郵便振込用紙を同封いたしましたので、年会費3,000円のお振込みをお願いいたします。郵便局の口座記号番号は次のとおりです。

00150 - 0 - 353596 「秋田高校東京同窓会」